

令和6年度第3回唐津市男女共同参画推進協議会 会議概要

1 開催日時

令和7年2月19日（木） 10:00～11:55

2 開催場所

唐津市役所 大手口別館5階 会議室

3 出席者

上野委員、岩本委員、大藺委員、川崎委員、加茂委員、小出委員、
小峰委員、杉山委員、田坂委員、田代委員、中村委員、古川委員、
吉村委員 [13名]

4 欠席者

浦田委員、田中委員 [2名]

5 事務局

男女共同参画課 仁部課長、井上係長

事業説明：危機管理防災課 田中係長、船津丸

6 コンサル

株式会社ぎょうせい 藤原専門員

7 傍聴者

1人

8 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

① 唐津市男女共同参画基本計画（第5次）最終案について

② 令和7年度女性活躍推進交付金を活用した事業について

(4) その他

(5) 閉会

【会議概要】

1 意見等の概要

会長	(1)唐津市男女共同参画基本計画（第5次）最終案について 本計画は、これから5年間の大事な計画。 計画策定における最後の審議会。委員皆さんからの意見をお願いしたい。
事務局	議題①について説明
会長	パブリックコメントの結果、意見提出は0件だった。委員の皆さんの意見をお願いしたい。
委員	資料1の6ページ、法改正があり、強制性交等罪の次に「（2023（令和5）年改正により、現在は不同意性交等罪）」を追記する修正が必要。その他、法令に関する表記に誤りがないことを確認済。
事務局	修正する。
委員	資料3の成果指標の文言が、資料1の57ページの文言と違う。前回「『男のくせに、女のくせに』など、性別で『らしさ』を求められたくない」に文言修正をしたと思うが。
事務局	修正する。
委員	第5次計画の中身を着実に実行できるか、考えることも必要。唐津市の審議会等委員の女性参画は、5年前と比べても数値の変わりがない。一部の頑張っている女性が担っており、その広がりがないと推測される。ここでテコ入れする事業展開が必要と考える。
会長	それは大変気になるところ。数値目標を掲げても、具体化できる手立てが計画に書かれていない。家族形態も変わり、女性団体への参加なども難しくなっていると考えられるなら、そこへの支援策を加えることも可能かと思うが。
委員	先日地元の区長が、公民館会議の中で、「地区の委員が男ばかりだから何とか女性を入れたい」と言われ変化を感じた。しかし、地域の固定観念もあるようで、なかなか女性が会の委員等を引受けない。例えば、会の委員に女性を2～3名入れる方法を提案したことがある。意識は高まっても、実現は非常に難しいと感じている。実態は、同じ女性がいくつも委員を兼務しており、どうすれば改善するか考えている。
会長	この間のいろんな取り組みで男性の育休取得なども伸びている。区長さんが（女性を入れたいと）言葉に出されるようになったのも意識改革が進んできたからか、それとも自治会役員のなり手がなくて女性の参加が進む側面もあるのかもしれないが、可能性が開けてきているのは間違いないと思う。
委員	女性の公民館長は、6年前は1名だったが、現在は7名に増えた。7名は公民館業務のたたき上げで男性館長を刺激していて、女性の活躍がよく見える。

	一方、各種団体との繋がりについて。地域で活動される団体の会議に合わせて人権研修会を行ったが参加者が少ない。人権に関わるような団体でもそういう現実もある。
委員	弁護士会は女性会長もいて、男女共同もかなり進んでいる。これを広げていけたらと思う。
会長	団体運営の工夫として、ジェンダーイコリティー、女性役員を必ず入れる、役員の男女比を同じにするなどがあるが、団体構成員の男女の割合も考える必要がある。 本計画のキャッチコピー「女と男が輝く・からつ」は第2次計画から使われていて、男女をそれぞれ「ひと」と読ませるところがこの副題の狙いだったと思うが、今の若い人に刺さるのか、今の時代に即した表現になっているか。
委員	もう「男」と「女」という時代じゃない。女性の心をもった男性もいるし、いろんな人がいる。少し古い感じがする。
委員	私も違和感がある。敢えて「女」「男」という文字を出す必要があるのか、次に向けて性別の垣根のない表現にしてみようか。
事務局	唐津市の予算項目も「女・男（ひと・ひと）輝き事業費」で、当たり前に使っていたが、私たちの意識も遅れていたかもと気づいた。キャッチフレーズは絶対になければならないということでもないので、外すことを検討したい。
会長	随分前のことだが、これを決めるのに、かなり協議した。その思いも活かしたい。ひらがなで「ひととひと」はどうか。
委員	このキャッチコピーが出来た当初は「すごくいい」と思ったが、最近の皆の反応を思うと、見直しの良い機会かなと思う。
委員	計画より時代が先に進んでいる。ひらがな表記も良いし「ひとりとひとりとひとり」又は「ひとりひとり」にして一人ひとりを大切にする意味を持たせてはどうか。事務局で決めてもらってよい。
会長	可能な範囲で時代に合ったものへ、次回の策定時に公募するのも良いのではないか。ダイバーシティという言い換えもあるが、男女共同参画のスタート地点にあった女性差別問題は抜けない。事務局で良く検討すること。
委員	資料1の61ページ以降にある用語解説が良い。これだけでも別冊にしてみようか。小中高校生にも勉強になると思う。
事務局	別冊で作成することは難しいが、市のホームページに公開するとき、本編と分けて掲載できるよう、掲載方法を工夫する。
委員	PDFを開く方法ではなく、なるべくそのまま見れるようにしてほしい。掲載方法の工夫は、男女共同の普及啓発に繋がると思う。
会長	若い世代も意識してほしい。市のホームページを見る若者は少ないのではないかな。
委員	佐賀県の計画は、ホームページにPDFデータのみ掲載。家庭科で男女共同参画を習う機会があると思うので教育委員会にお願いして、学校で計画を見てもらう機会を作ってもいいかもしれない。
委員	学校から子どもに配布されているタブレットを活用して情報提供も考えてはどうか。これはお金をかけずにできると思う。

委員	今の子どもたちは、自分が研究したいテーマを見つけて、それを調べている。「知りたい」意欲はかなり高い。
会長	探求で、ジェンダーに関心ある子どもが増えている。唐津市の適切な情報の出し方が求められていると同時に職員の資質向上も求められる。次年度以降、教材化や情報提供の方法についても検討を。石破首相は地方創生に重点を置いているので、国の交付金なども活用して。 これまで審議を重ねたが、この最終案を承認してよいか。
委員全員	承認
会長	(2)令和7年度女性活躍推進交付金を活用した事業について
事務局	議題②について説明
危機管理防災課	地域防災における女性の参画を説明
会長	女性活躍交付金の予算と比べ地方創生の予算が大きい。地方創生のメニューで予算を獲得する方法もある。
委員	県内の水害を機に、令和元年から防災に力を入れている。県内市町から避難所運営の手引きを佐賀県で作成してほしいと依頼がありアバンセにて作成した。その際、女性リーダーの育成が必要と感じ、防災育成事業を5年間行っており、今年度は唐津市と一緒にいった。 3回連続の講座で、避難所運営でなぜ女性の視点が必要か、多様な視点を入れる必要性について男女共に学んだが、講座の最後の発表は男性が行い、少しショックを受けた。発言を躊躇する女性がまだ多いことを実感した。意識向上を図りつつ、男性にも「女性リーダーが必要だ」と言ってもらえ、女性が参加しやすい体制作りが大切だと実感した。今回の事業がそれに寄与するといい。
会長	災害の歴史を振り返ると、性別に関係なく被害は降り注ぐ。しかし、性別で受け取り方が違う。避難所の風景も個別仕切りができた以前に比べると変わってきた。それでも女性の生活しづらさはある。「防災は男の仕事」と考えられて、女性の視点が入りにくいのも事実である。 役所の防災課に女性職員の配置、災害チームに女性を加える体制は広がっている。しかし、地域レベルではまだ進んでいない。女性参加を進めることが必要と強く感じる。
委員	人の気持ちを変えるのに、制度を変えるのは有効。地域防災の規約改正で、役員を男女各〇名と配置すれば組織内の男女バランスを保つことができる（高知県安芸市の取組を紹介）。女性の参加が目に見えてくると、役員だけではなく一般の参加率も増える。
危機管理防災課	令和4年度から防災リーダーを育成し、年4回のフォローアップ事業を行っている。4回のうち1回は、女性事業として実施している。計画しているセミナーは、女性のためのセミナーとタイトルをつけることで、女性の参加を促す。女性への配慮や活躍をテーマとし、まずは女性に学んでもらうきっかけ作りとして位置づけている。避難所での受援力の考え方（講演会）、できること（グループワーク）、防災食への関心を高める取り組み、避難所資機材の取扱い訓練などを予定。

	唐津市の自主防災組織は国・県申請のものが100%、唐津市認定は366団体中86団体ある。
委員	男性が表に出ることも、その過程で参画する女性が多くいればそれはそれでいいと思う。組織作りと意識作りに男女参画の視点を含めてやらなければならないと思っている。
会長	唐津市全体で進んでいるのか、地域により凸凹があるのではないか、その手立ては講じているのか。一方、形から入ってモデルをつくるのも有効。
委員	行事や講演会を行っても、「聴くだけ」ではつまらない。体験型を取り入れて、実際に動くことで意識を高める必要がある。
委員	子どもに関わる女性リーダーがいると男性が見落としがちな所が見えると思う。幼稚園でも毎月避難訓練を行っており、そこに女性リーダーに携わってもらい、何か学ぶのもいいなと思う。
会長	余談だが、いざ避難となった場合、避難所へ問い合わせる内容が性別によって違うことを自身の経験として認識している。
委員	昨年、浜玉・七山地区で豪雨災害があり、災害ボランティアの現場で、男性10人のグループに女性が1人入ると仕事がはかどる、というような話もあった。避難所でも女性スタッフが入って一緒に運営することはいいことだろうと思う。
委員	制度やしくみ作りが意識を変えるきっかけになる。会社において災害時の出動体制などはできていたが、社内の事はBCP（事業継続計画：緊急事態が発生した際に、企業が損害を最小限に抑え、事業の継続や早期復旧を図るための計画）を策定し、いろいろと考えるようになったと実感している。
委員	南海トラフに備えてBCP改訂を国から求められているが、なかなか進んでいない。以前賞味期限切れの備蓄品の処理に困り、それ以来備蓄も進んでいない。七山災害のとき、夫婦で災害ボランティアに参加した。男女がいたから仕事がうまく回ったと思う。
委員	職場でBCP計画を策定中。何もないと動けないから日ごろからの取組や準備が大切と思う。
会長	外で働く人が増えて地域の見守り力が弱くなってくると、事業所・職場単位の取組も大事になる。フードロス、こども食堂との連携なども考えられる。
委員	人間の習性で、心臓を守るため壁側に寄ってしまう。災害時の避難所では様々なケースがあるから訓練は繰り返し必要。
委員	防災リーダーのフォローアップ研修とのことだが、対象はどんな方か。
危機管理防災課	これまで県や市の防災リーダー養成講座を受講された方や、市に対し防災士の資格を持っている旨知らせていただいた方。
委員	女性の視点が大切だという流れがあることに納得。交付金事業では女性視点を強めに取り入れる方がよいのでは。 企業ではBCP計画のようなものがあると取組が進んでいる。地域でも半ば強制的に防災の研修を受けてもらおうとか、消防団に女性を加える等唐津市が中心になってやっていけないか。
危機管理防災課	自主防災組織は、あくまでも任意。役員のなり手不足があるの

	で、会長と副会長がいれば組織として認め、防災組織作りのきっかけとしている。山間部は従来からの地域の助けあい組織があり、それを自主防災組織と連携できないか働きかけをしている。
委員	地域に防災リーダーがいることが知られていないが、防災意識は高まっていると思うので、強めに押してもらってよいと思う。
委員	女性も地域活動を担っている人が多いが、決定する場面に女性が参画していないのが問題と考える。引き続き唐津市と連携して取り組んでいく。
委員	避難するかどうか判断に迷うとき、防災に長けた人がいてくれたらと思う。防災リーダーがいると、地域の人 は安心で助かる。地区に一人、防災リーダーがいてほしい。また、防災リーダーと消防団が連携できないか。互いに何ができるか知れば、連携もできると思う。
会長	まとめ
会長	第5次の最終案の形も整ったが、それを実現する手立てや道筋が不足している部分もある。防災について、男女共同で考える意義は大きい。デジタル人材の育成等社会の変化に伴い、新しい課題も出てくる。引き続き協力をお願いしたい。
会長	議事については終了。会の進行を事務局に戻す。
事務局	本日の意見を踏まえ、第5次計画の修正確認は会長・副会長へ一任でよいのか。
委員全員	承認
事務局	4月からは第5次計画に基づき、全庁で事業に取り組む。今後とも協力をお願いしたい。